

# 5

## JICAの取組

持続可能な都市を実現するためには、都市基盤・都市マネジメントの整備・強化を進めるとともに、都市ごとに重点を決めながら、持続可能な都市の要件をバランスよく構築する必要があります。さらに、都市における開発ニーズと地球環境への配

慮の両立の実現に、これまで以上に戦略的に取り組むことが必要である。JICAはこのような基本認識のもと、持続可能な都市の実現に向けた取り組みを進めていく。

### 取組方針

#### ① 包括的な都市課題への支援

アーバン・スコープを活用した都市診断等を通じて、都市全体を俯瞰した視点から都市課題を明確化し、都市開発計画、地域計画への支援を実施。また、これに必要とされる総合的、多角的な行政組織・体制等の構築を支援する。

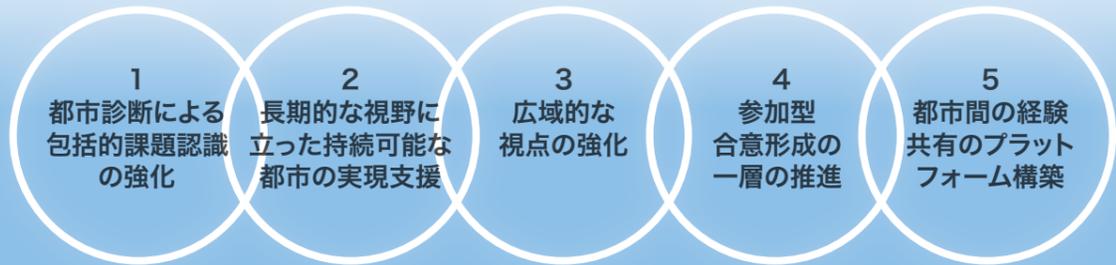
#### ② 都市の魅力向上への支援

都市の自立的発展や競争力強化のため、地域の歴史・文化や人材など都市のアイデンティティや地域資源を捉え直し、さらに磨きをかけるとともに、産業育成、環境や景観の改善等をおし、都市の魅力を高め、新たな価値を創造していく活動を支援する。

#### ③ 地球環境問題への取り組み

開発途上国が抱える現実の様々な課題を踏まえつつ、地球環境問題に配慮した対応に積極的に取り組むとともに、地球環境問題への対応の必要性を開発途上国の都市と共有し認識の深化に努める。

### アプローチ



### 最後に

本調査における検討結果については、既存案件での留意事項としての活用に加え、都市全体の持続性を課題とする新しい形の都市案件での試行的取組につなげていくこととし、それら案件における試行・活用の結果を踏まえて、JICAの都市開発分野における支援方針を引き続き検討・改善していく予定である。

# 持続可能な都市を構築するために

## ～JICAの新たな挑戦～

グローバル化する世界において、都市の役割が重要性を増している。特に、開発途上国の都市は、急激な経済成長と人口増加により様々な課題に直面する一方で、気候変動など地球の持続性に大きな影響を与える存在となっている。

JICAは、「開発途上国における持続可能な都市の形成に関する調査」の中で、長期的な世界の変化を見据え、持続可能な都市の在り方や、それを実現するためにJICA事業に必要な取組を検討した。本パンフレットは、その成果を取りまとめたものである。

# 1

## 拡大する都市と地球環境

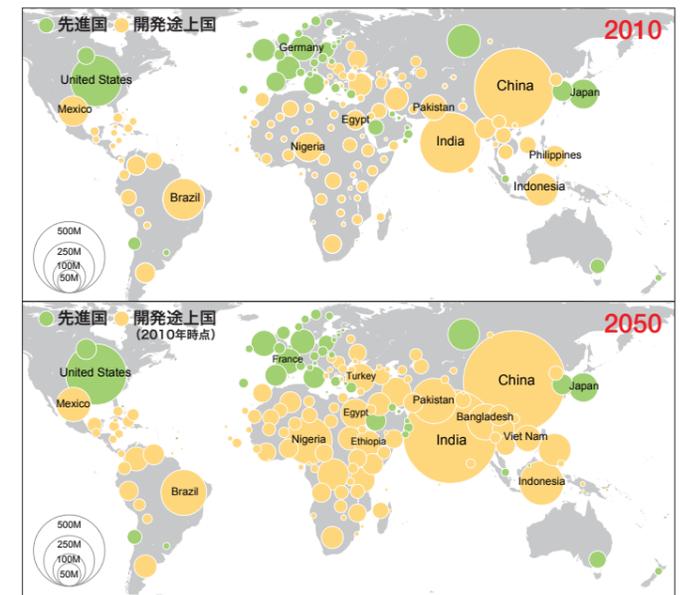
都市化の進展は世界的な傾向である。現在、世界の都市人口は約38.8億人、全人口の約2分の1となっているが、2050年にはその数は約63.4億人を超え、世界の全人口の約3分の2が都市に居住すると予測されている。

特に、開発途上国の都市人口は急速に増加し、その数は2050年には約53.2億人と2010年比の2倍に膨らむことになる。(国連 2014)

都市は経済成長のけん引力となる。開発途上国の多くの都市において、都市化の進展に伴い経済成長が進んでおり、国にける都市の役割はますます重要性を増している。

一方で、都市は環境に大きな負荷をもたらしている。今日、都市の面積は世界の陸地の2%を占めるに過ぎないが、その経済・社会活動を通じたエネルギー消費量は世界の約60-80%、炭素排出量は約75%にのぼると言われている。

地球規模の課題を克服し、次の世代が安心して住み続けられる地球環境を守るために、将来の都市の在り方が問われている。



都市人口の拡大(出典:UNICEF)

# 2

## 開発途上国の都市の課題と強み

開発途上国の都市は、大きな可能性や強みをもつ一方で、様々な課題を抱えている。

### 都市化

- ・経済成長ポテンシャルの拡大
- ・人口ボーナスの享受
- ・急速な都市化の進展

### 社会システム

- ・都市貧困、貧富の格差拡大
- ・都市インフラや公共サービスの不足
- ・都市スラムや未計画居住区が存在
- ・政治的/社会的権利の抑圧
- ・セーフティネットの不備
- ・脆弱なガバナンスと都市経営力の欠如
- ・限られた人的資源と人材育成

### 地域資源、地域環境

- ・水資源やエネルギー資源の不足
- ・気候変動リスク、GHG排出量の増加
- ・災害への脆弱性
- ・自然環境の汚染や破壊
- ・脆弱な環境保全体制

### グローバル化

- ・グローバル化によるリスクと成長可能性
- ・民間直接投資の拡大
- ・新たな産業構築の可能性
- ・インフォーマルセクターの存在
- ・雇用機会の乏しさと若年失業率
- ・産業構造の多様性の不足

### 都市の魅力

- ・独自の歴史・文化・伝統(アイデンティティ)
- ・優れた文化遺産や自然資源(地域資源)
- ・アイデンティティや地域資源の活用不足
- ・都市環境・居住環境の悪化/治安の低さ

### 広域的連携、都市連携

- ・都市と農村の格差拡大
- ・農村から都市への流入と都市貧困の拡大
- ・人材や都市施設の地域配分の偏在
- ・未成熟な地域間の連携体制

### 3

### 持続可能な都市とは

すべての都市に共通する目標像として、持続可能な都市の姿を議論し整理した。

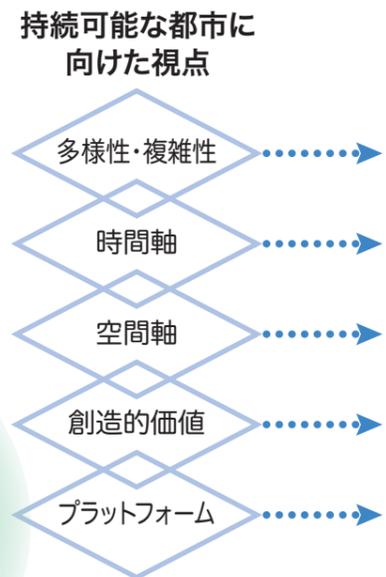
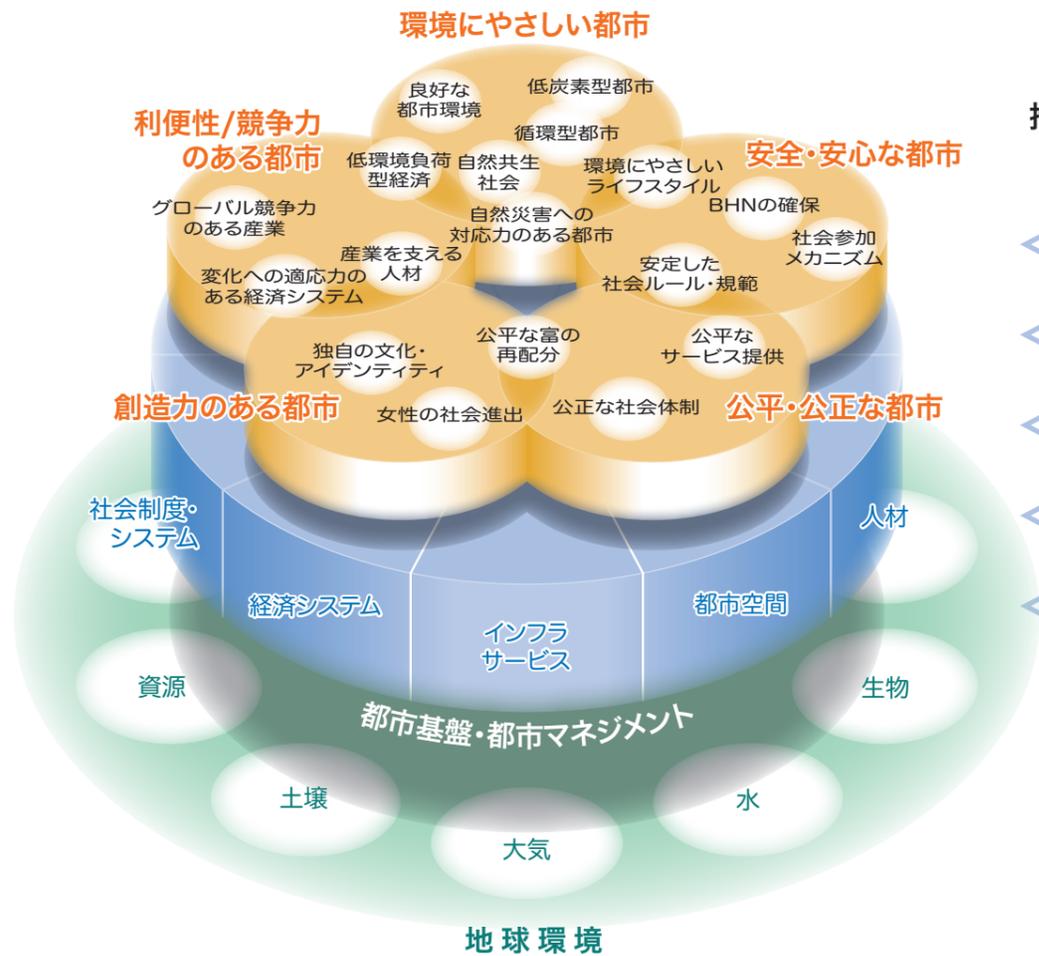
持続可能な都市は、以下の5つの要件をバランス良くもっている都市であるとする。

- ①公平・公正 ②安全・安心 ③環境にやさしい
- ④利便性/競争力がある ⑤創造力がある

この持続可能な都市を実現するための基盤として、適切な都市基盤・都市マネジメントが必要である。都市のあらゆる経済・社会活動は、基盤としてのインフラ施設、サービスに加え、適切な社会制度・システムなどの都市マネジメントのもとに成

立する。都市マネジメントへの住民や民間企業などの多様なステークホルダーの参加メカニズムを構築することが、外部変化への柔軟な対応力につながる。

さらに、持続可能な都市が実現する前提として、地球環境の持続性が確保される必要がある。都市は、活発な経済・社会活動により大量のエネルギーや資源が消費され、廃棄物や二酸化炭素などの大きな排出源となっており、地球環境に多大な影響をもたらすだけでなく、資源やエネルギー供給の変化や気候変動による海面上昇や災害発生などに脆弱な場所でもある。



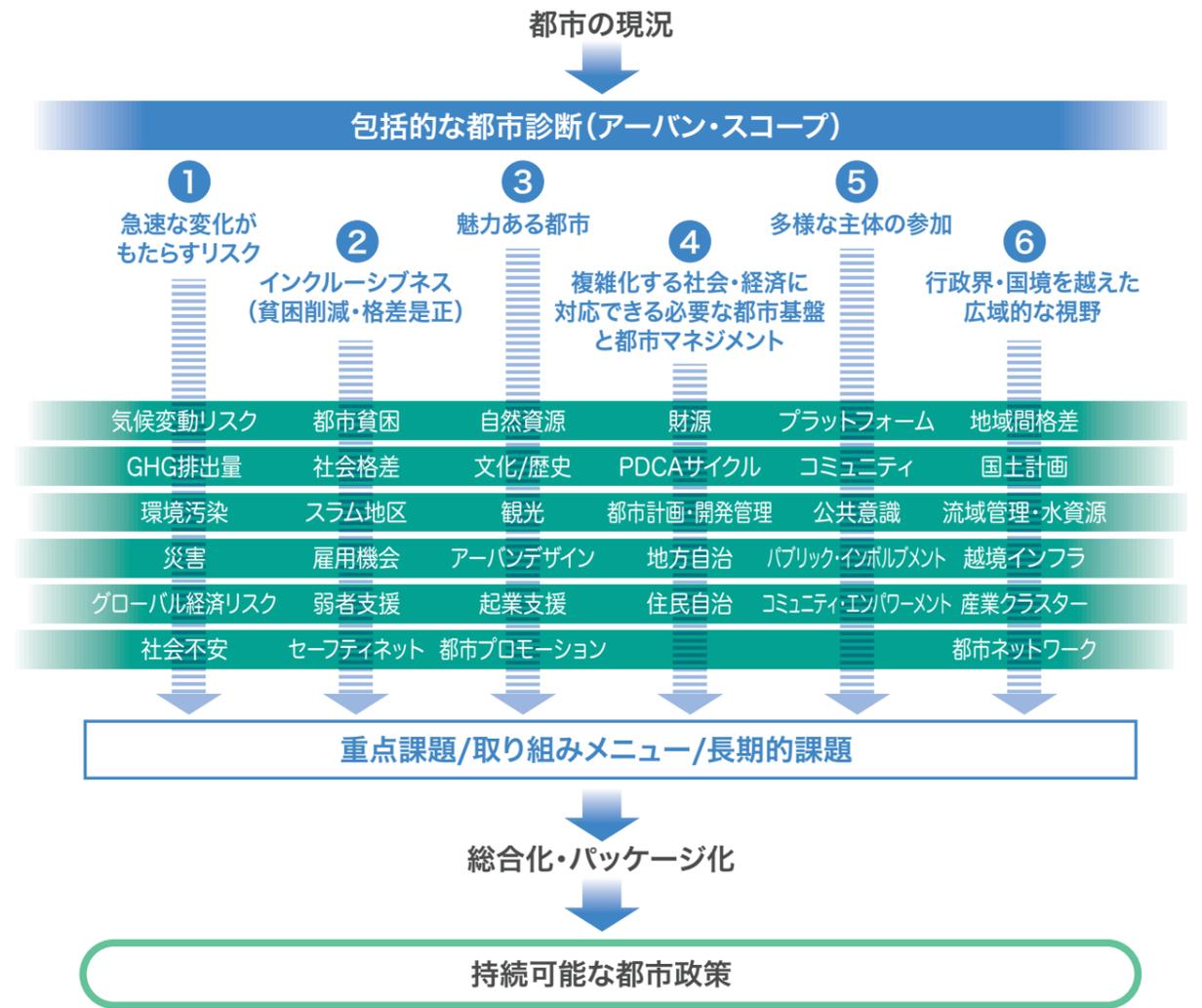
### 4

### 持続可能な都市に向けた視点と都市診断 ~アーバン・スコープ~

開発途上国は、先進国と異なり、都市化や急速な経済成長と同時に、グローバリゼーションや地球環境問題に直面し、複雑な問題を抱えている。一方で、開発途上国ならではのダイナミックな成長の可能性を秘めている。

前段で議論した持続可能な都市を実現するためには、都市の状況や関係主体の“多様性・複雑性”、発展段階や変化を考慮した“時間軸”、都市と周辺の相互作用を捉えた“空間軸”、地域性を踏まえた“創造的価値”、多様なアクターの協働の場とし

ての“プラットフォーム”といった新たな視点を持つ必要がある。JICAは、持続可能な都市の姿を踏まえ、各都市が抱える強み・課題・リスク・地球環境に与える影響などを浮き彫りにするためのツールとして、6つの診断領域からなる「包括的な都市診断ツール(アーバン・スコープ)」を取りまとめた。このアーバン・スコープを活用し都市診断を行い、地球と共生する持続可能な都市を実現するために必要な取り組みを関係者で議論した上で、総合的な政策の立案を目指す。



斜面に広がる違法建築 ゲジュコンドウ (アンカラ・トルコ)



集中豪雨で冠水した道路を走るバイク (ハノイ・ベトナム)



行き詰った幹線道路 (ダッカ・バングラディッシュ)



高層ビルの下に広がる河川沿いの違法住宅 (セブ・フィリピン)



適切な処理がされない埋立地 (セブ・フィリピン)



パゴダを中心とした都市の形成 (ヤンゴン・ミャンマー)